

インド金融政策（2019年4月）

RBI（インド準備銀行）は2会合連続で政策金利を引き下げ

2019年4月5日

RBIはさらなる利下げ余地を示唆

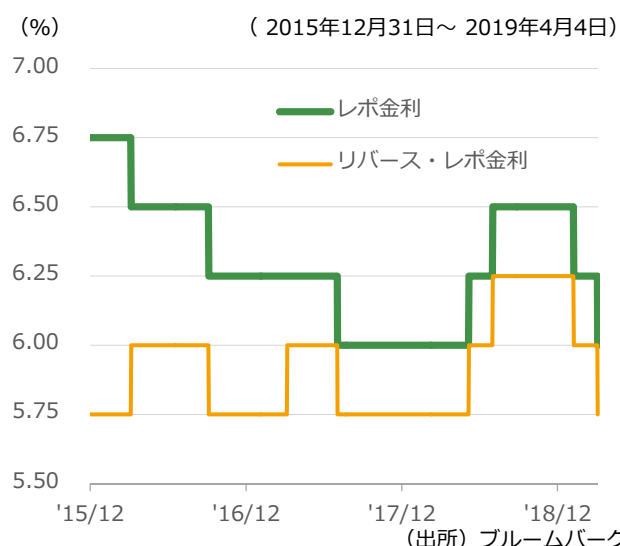
2019年4月4日（現地）に開催された金融政策委員会において、RBIは政策金利であるレポ金利を0.25%ポイント引き下げ、6.00%にすることを決定しました。また、リバース・レポ金利も0.25%ポイント引き下げ、5.75%にしました。利下げは市場におおむね織り込まれており、反応は限定的でした。

2018年後半以降、インドのインフレ率は低下傾向にあり、RBIのインフレ目標の中心値である+4%を継続的に下回っています。また、米国の金融引き締め姿勢の後退により、新興国からの資金流出懸念を背景とした通貨安懸念も後退しました。これらの要因がRBIに政策金利の引き下げ余地を与えたようです。

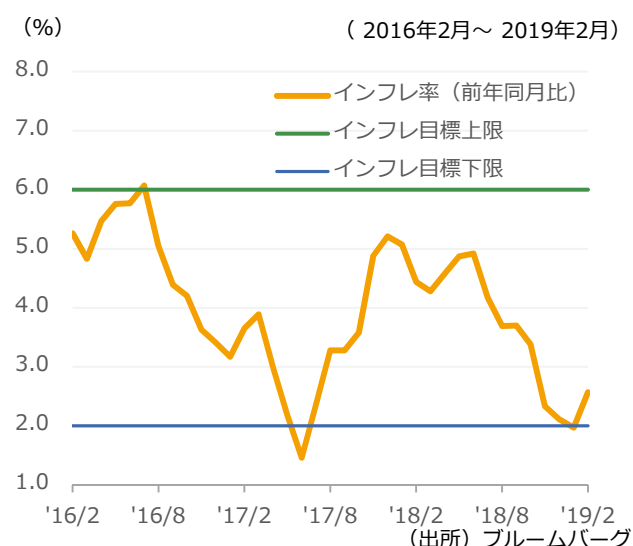
2018年12月に政権に近いダス元財務次官がRBIの新総裁に着任して以降、RBIは政府と足並みをそろえて規制緩和や流動性の供給などに努め、2019年2月に利下げを実施し、金融緩和的な姿勢を強く示してきました。RBIは今回の金融政策委員会で、4-9月のインフレ率見通しを2.9~3.0%と、2月時点の予想である3.2~3.4%から下方修正し、さらなる金融緩和余地を示唆しました。

目先は4月中旬から5月後半まで行われる下院総選挙が注目されています。モディ首相率いる与党BJP（インド人民党）は、ほとんどの選挙区で現職を立候補させていますが、議席数を減らすとみられています。それでもモディ首相は人気のあるリーダーであることから、政権は継続すると当社ではみており、当シナリオが実現した場合、インドの金融・為替市場は構造改革の継続を好感するとみられます。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。